

海部地域の農業情報(令和6年7月)

掲載日:2024年8月9日更新

イネカメムシの防除が進行中

とき 令和6年7月
ところ 海部全域

農業改良普及課は、昨年多発し大幅な減収被害を引き起こした「イネカメムシ」について、効果が高い薬剤による出穂期防除が重要であることを呼びかけ、AgliLook^{※1}や現場確認による地区ごとのきめ細かな出穂期予測と、適期の薬剤散布を支援している。



薬剤散布翌日のイネカメムシ(弥富市)

7月上旬、海部南部地域で水稻品種「あきたこまち」の出穂期である7月3日を中心に、ラジハリ^{※2}やドローンによる薬剤散布が行われた。散布翌日に、水面にイネカメムシの死骸が確認され、薬剤が効いていることが確認できた。

7月10日頃から海部南部地域で水稻品種「コシヒカリ」が出穂期を迎えたが、降雨のため、2日順延されて7月13日の土曜日にラジハリによる防除が行われた。当地域では土日祝日にラジハリ防除を行うことは異例であり、本年は何としても昨年のような被害を出さないために、このような取組が行われた。

また、出穂期が8月中旬の水稻品種「あいちのかおりSBL」を中心に作付けしているJAあいち海部大治支店管内で、7月9日に水稻生産者に向けた「稲作講習会」が開催された。農業改良普及課は管内の水稻生育状況、基本的な水管理、病害虫対策を説明、特にイネカメムシについて適期防除を強く呼びかけた。農薬販売業者からも薬剤の特性など効果的な使用方法の情報提供があった。生産者、関係者間で活発な意見交換がなされ、関心の高さが伺われた。

※1 AgliLook:人工衛星と気象データを活用した水稻用栽培管理支援ツール、作物の生育状況が確認できる

※2 ラジハリ:農薬の空中散布を目的とした無人ヘリコプター